

「募金・協賛推進特別委員会」第13回会議 結果概要

1 日 時

令和6年3月21日(木)10:00~11:00

2 場 所

滋賀県農業教育情報センター 4階 第4研修室

3 出欠状況

委員9名中7名出席

4 議事概要

報告事項

(1) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和5年度取組実績について
事務局から資料1の説明の後、以下のとおり発言・質疑応答があった。

<委員>

5ページ6ページについて、令和5年度、寄附は減っているが協賛が増えている。大会が近くにつれて増えていくとは思うが、目標はどうか。また、今年度の実績、あるいはこれまでの実績を踏まえてどう考えるか。5ページ一番下の表は協賛と寄附を並べて記載する方が見やすいのではないか。

<事務局>

寄附は昨年度大口が多かったため令和5年度は減っているが協賛に力を入れた。協賛で多くの御協力をいただいている。

目標について、先催県では、寄附協賛合わせると7億円前後で推移している。ひとつの目安としては10億円と考えているが、目標額を達成した際にトーンダウンしてしまうのは避けたいので明確な目標は定めていない。

<委員>

多くの企業が協賛してくださっているが、これ以上は見込めそうにないのか、もっと協賛していただけそうか。どのように捉えているか。

<事務局>

経済団体の会合など幅広く呼びかけをしているが、基本、個別訪問をしているので、なか

なか訪問しきれていないと感じている。寄附・協賛制度を知っていただけるようまずは、周知を強化し、個別訪問につなげていきたい。まだ伸びる可能性はあると考えている。

＜委員＞

びわ湖マラソンのチャリティーはどのような仕組みか。他にもイベントはあると思うが、さらに取り組まれる予定はあるか。

＜事務局＞

びわ湖マラソンのチャリティーに参加するかどうかは、ランナーに選択してもらう仕組みである。一人複数口申し込めるようにもなっている。他のスポーツイベント関係でもできるか検討を進めていきたい。

＜委員＞

天皇杯という視点でみると、令和6年度冬から国スポは始まっている。企業等に説明される場合は、そのようなこともアピールしてもらえると先方の捉え方も変わるものではないかと思う。

＜事務局＞

まだ先のことと思われないように、委員ご指摘のことや、今年実施するリハ大会のことなど伝え方を工夫していきたい。

審議事項

(2) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ募金・企業協賛に係る令和6年度取組計画(案)について

＜委員＞

御協力をいただくには、皆さんに知ってもらうことが大事。大会の認知度とか盛り上がりについてどう考えているか。障スポは、地元市町の直接的な取組がない分、地域によっては障スポの認知度は低いように感じている。

＜事務局＞

認知度は大きい課題で、国スポは半数弱で、障スポは3割くらいである。せっかく44年ぶりの大会なので多くの人に知っていただきて、楽しみにしていただきたい。そのためにも認知度向上に努めたい。今年度から市町の広報県民運動担当者とワーキング会議を開催し意見交換している。市町も障スポの啓発を考えてくださっているので協力して進めていきたい。

＜委員＞

どこまで機運が上がればよしとなるのか悩ましい。1年前となる今年の9月28日にできることをやりたいと思っている。事務局から報告があった認知度が実際のところはどうなのか。知っているけど、あまり関心がない、自分には関係がないというのが多いだけなのではないか。

＜事務局＞

認知度については、どこまで行けば成功か難しいところであるが、やはり大会開催年度には県民の皆さんに知つてもらうことが目標かと思っている。今後、テレビ、ラジオ、ネットなど様々な媒体を活用して認知度向上に努めたい。

＜委員＞

新たな募金グッズは何か考えているか。

＜事務局＞

検討中である。佐賀県ではTシャツが人気であったので、あつたらよいなと思っているが、サイズを揃えたり、在庫の問題など運用面でも考える必要がある。皆さんに持つていただくことが啓発に繋がるようなかたちで展開できればと思っている。

＜委員長＞

概して言うと、子育て期の女性のスポーツ実施率が低いというデータがある。これについてご意見をお聞かせいただきたい。

＜委員＞

私の地域の役員は40～50代なのだが、ちょっとしたイベントにも参加できない人が多い。とにかく仕事で時間がとれない。好きなことには時間はさけるが、ボランティア的なことはできないということが多く、役員の担い手がないのが現実。そんな中で生涯スポーツをやろうという人がどれだけいるだろうか。昔なら、ママさんバレーなど子供たちの関わりの中でスポーツをする人もいたがそれも少なくなっている。

＜委員長＞

アスリートさながらに日々研鑽されている方とまったく時間がとれない方の2極化があると思っている。やりたいが時間がない女性に対してスポーツの楽しさなどを伝えていくにはどうしたらよいか悩んでいるところ。

＜事務局＞

認知度の向上が課題という中で、若者、女性はこれから認知度を上げないといけないター

ゲット。そのためには自分に関わりがあると思ってもらえることが大切で、ボランティア参加、観戦、デモンストレーションスポーツ参加の呼びかけはその方法のひとつかと思っている。楽しそう、関わってみようと思ってもらうために遡及できるような広報が必要かと思っている。

＜委員＞

時間がないという人でもスポ少の当番など子どもの関係では時間を割こうとするので、そういった切り口でおもしろさを伝えたりできるのではないか。

＜委員長＞

例えば、子どもを通じてサッカーの応援に行くこともできるし、貴重な意見をいただいた。

＜委員＞

あちこちでスポーツ大会はある。中体連、小学校でも、多くの保護者が応援に来ている。そこでポスター、横断幕をみられるとよい。団体と協力して掲示をしてみてはどうか。

＜事務局＞

競技団体には横断幕を活用していただいているが、他の大会でものぼり、横断幕などなるべく多くの人に見ていただける取組ができればと思う。

＜委員＞

我々の団体はどのような関わりができるかを考えているところ。例えば、おもてなしイベントの中で物品販売ならできるかなと思っている。和歌山国体の時の瀬田川の漕艇場でおもてなしの協力を瀬田4学区の者がどんぶりメニューを考えて出したという過去がある。

＜事務局＞

婦人団体の皆さんには、そういったおもてなしで活躍していただきたい。先催県では、お味噌汁、お菓子などふるまいをされている姿をよく目にする。地元料理をアピールするというのもある。競技会は各市町が主体となって運営するので、大会が近づいてくるとお声がかかると思うのでできるかぎり御協力いただけとありがたい。

＜委員＞

我々の団体でも事業を各市町で行っている。のぼり等の貸出はされているのか。周知に協力できると思うのだがどうか。

＜事務局＞

市町、競技団体、スポーツ施設にのぼり、横断幕を配って活用していただいているが、のぼ

りのレンタル制度はないのが現状。そういういたイベントで活用していただけるということであれば方法を考えていきたい。

<委員長>

今後、ポスター等啓発物ができると思うのでぜひ、お声がけいただきたい。

<委員長>

審議事項については、承認することとし、次回の総会で報告いただくこととする。